

2019 年度日本太陽エネルギー学会 研究発表会開催報告

盧 炫佑*

1. はじめに

青森県青森市は本州最北の県である青森県のほぼ中央に位置した県庁所在地であり、青森湾を臨む交通の要地でもある。ねぶた祭りで有名な青森だが、国の特別史跡にも指定されている縄文遺跡の三内丸山遺跡を有している。三内丸山遺跡は北海道・北東北の縄文遺跡群として、2021 年の世界遺産登録を

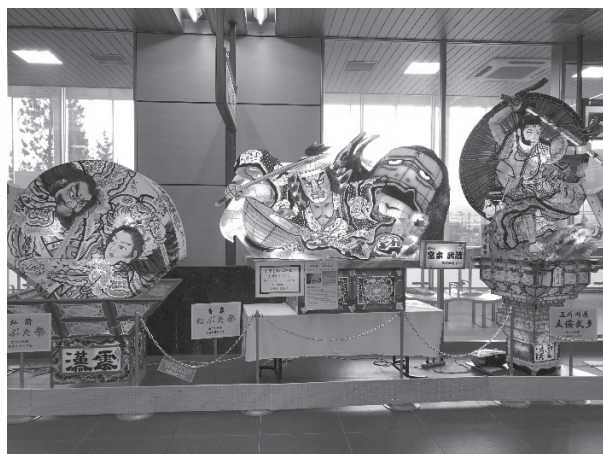


図1 ねぶた



図2 三内丸山遺跡

目指している。そんな青森市において、2019 年度の日本太陽エネルギー学会・研究発表会は開催された。

2. 研究発表会の概要

研究発表会は、2019 年 10 月 17 日～18 日の 2 日間、青森県青森市の「リンクステーションホール青森」で開催された。前日の 10 月 16 日にはプレイベントとして、青森市清掃工場、三内丸山遺跡の見学会を開催した。（見学会の詳細については別途記事を参照ください。）

今年度の合同研究発表会は、84 件の通常発表と 8 件のポスター発表があった。その内訳は以下の通りである。分野分類については近年の投稿動向等を踏まえて調整を図っている。発表分野ごとの発表数は例年より少し少なかった。

参加者数は、当日参加者を含め 147 名であった。プレイベントの見学会には 20 名、懇親会には 62 名、それぞれ参加があった。



図3 開催地である青森市

*OMソーラー株式会社 取締役執行役員・技術部長

表1 発表分野と発表数

1. 気象・地球環境	8
2. 太陽熱利用	11
3. 太陽電池セル・モジュール	12
4. 太陽光発電システム	34
5. 風力・水力	3
6. 建築	15
7. 材料・素子	0
8. 光化学・電気化学	1
9. 生物・バイオマス	4
10. 応用利用・エネルギー貯蔵	2
11. 理念・教育	2

研究発表会運営委員会の委員は以下の通りである。（順不同，敬称略）

委員長	盧 炫佑	OM ソーラー
委員	赤平 亮	青森県産業技術センター
委員	石井徹之	電力中央研究所
委員	伊高健治	弘前大学
委員	宇都宮健志	日本気象協会
委員	太田 勇	ミサワホーム総合研究所
委員	加藤和彦	産業技術総合研究所
委員	佐々木剛	矢崎エナジーシステム
委員	高野章弘	F-WAVE
委員	田口幹朗	パナソニック
委員	野村裕宗	ソーラーフロンティア
委員	藤澤 徹	神奈川工科大学
事務局	池田祐一	日本太陽エネルギー学会

委員をはじめとする関係者各位のご支援とご協力に感謝の意を表します。

発表はそれぞれ持ち時間14分，質疑5分で行われ，いずれの会場も活発な議論が交わされた。

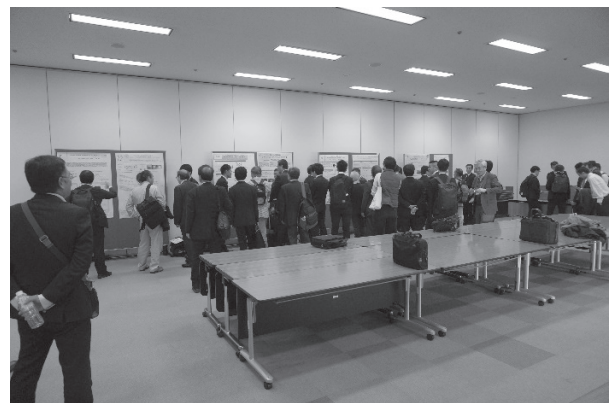


図5 ポスター発表の様子



図4 青森駅の歓迎看板



図6 通常発表会の様子



図8 佐藤学長のご挨拶

3. 特別講演

特別講演は、10月17日14時50分より、リンクステーションホール青森中会議室1で開催された。

初めに、日本太陽エネルギー学会・須永修通会長より、開催挨拶がなされた。続いて、弘前大学学長の佐藤敬様よりご挨拶を頂いた。

特別講演Ⅰでは、弘前大学教授の本田明弘様より「北日本の風力エネルギーについて」と題した講演を頂いた。青森での風力発電事業が盛んであることがわかった。続いて、特別講演Ⅱとして青森大学教授兼特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森理事長の柏谷至様より、「エネルギーを通じて地域を豊かに～NPO法人グリーンエネルギー青森の取り組みから～」と題した講演を頂き、特別講演Ⅲとして、弘前大学人文社会科学部教授の関根達人様より、「縄文時代の北日本の人口変動と社会変化」と題した講演を頂いた。縄文文化の発祥から繁栄、衰退までの長い年月にかけた社会変化について知ることができた。また、縄文人の優れた文明や技術にも感銘を受けた。



図9 特別講演Ⅰ：本田教授によるご講演



図10 特別講演Ⅱ：柏谷理事長によるご講演



図7 須永会長挨拶

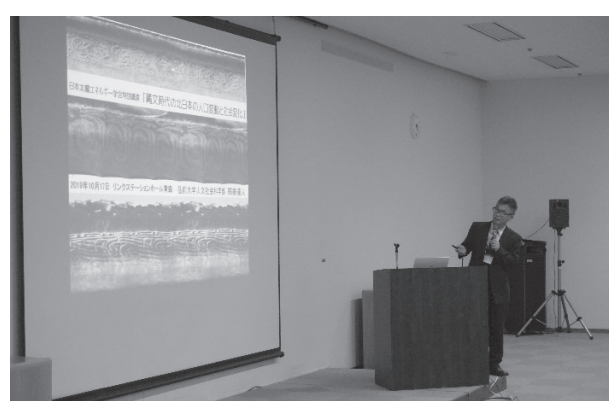


図11 特別講演Ⅲ：関根教授によるご講演

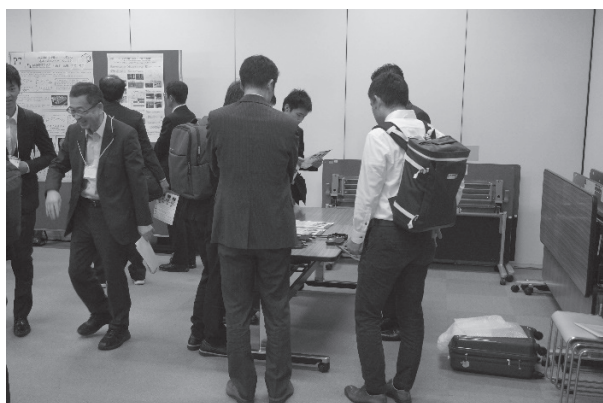


図 12 企業展示の様子

4. 企業展示

企業による展示コーナーをポスター発表会場の中会議室 2 に併設し、会員との情報交換の場とした。出展企業は Tigo Energy, Inc. の 1 社であったが、太陽電池モジュール単位の管理ができるジャンクションボックスとプラットフォームを提供し、太陽光発電システムのパフォーマンスを向上させることができる製品であり、大勢の会員が訪れていた。

来年以降も、学会と産業界の相互活用につながるような企業展示の在り方について模索したいと考えている。

5. 懇親会

懇親会は、特別講演に引き続き、場所を移してリンクステーションホール青森内の中会議室 2 にて開催された。伊高研究発表会実行委員長の司会のもと、須永会長（日本太陽エネルギー学会）の挨拶に続き、神本学長特別補佐（弘前大学）によるご発声で乾杯となった。しばらくの歓談中、特別講演者の本田教授（弘前大学）と関根教授（弘前大学）からお言葉をいただき、その後、盧（筆者、運営委員長）より大会への参加と積極的な支援に対して感謝を申し上げますとともに来年度開催予定地（大分市）を発表した。続いてしばらくの歓談後、秋澤副会長（日本太陽エネルギー学会）による中締めが行われ、名残惜しい懇親会が終了した。

6. おわりに

今年も質の高い発表と討議が行われただけでなく、特別講演など、内容の充実した大会を終えることができた。出席頂いた会員の皆様、研究発表会運

営委員会の皆様、青森の関係各位にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます。

本学会では一般会員、団体会員の会員数増加の取り組みや、研究発表会を盛り上げるための検討を行っている。同時に、企業に対しては「情報発信する者に情報は集まる」という意識醸成を図らねばならないと認識している。研究論文の発表時間、発表方法、セッションの区分等についてはまだまだ検討の余地があるだろうし、大会開催場所、日程、海外からの招待講演など過去の事例に捉われない案もあるように思われる。また、各種イベントは市民との貴重な交流の場であるはずなので、一般の方々にいかに周知し、太陽エネルギーの重要性を知っていただくかについても、研究内容を深めるのと同様に重要なテーマとして運営委員会において考えてゆきたい。

最後に懇親会後に撮影した青森港の夜景をご鑑賞ください。



（青森港向き）



（青森港の反対向き）

図 13 青森の夜景